Yamakado News Letter

山門水源の森を
次の世代に引き継ぐ会

作業を終えた大津祭保存会の皆さん

標識プレートを取り付け

標識プレート

株式会社山久の皆さん

四季の森で倒木等の林床整備

湿原観察道でササユリ金網かけ

様々な人々との協働の輪が広がる

5月12日は大津祭保存会から24名、19日には株式会社山久（本社長浜市）から社長様はじめ、社員やそのご家族の方々56名が山門水源の森に来訪されした。

大津祭保存会は滋賀県と山門水源の森を引き継ぐ会との協働事業で、曳山の資材となるアカガシ林の整備を担当されています。年配の方から次世代を引き継ぐお子さんまで、老若男女が育林していくアカガシに曳山13基x２で26本のアカガシに標識の設置をされました。アカガシが曳山の主要な用材となるには、樹齢200年の木が必要だそうです。山門水源の森にあるアカガシは薪炭林だったこともあり、古い木でも樹齢60年程度です。ですから少なくともこれから140年は育林が必要です。

株式会社山久は滋賀県とネーミングライツ契約を結び、山門水源の森のネーミングライツパートナーとして支援頂いています。19日はあいにくの小雨で肌寒い日でした。そんな中、四季の森の林床整備や湿原観察道沿いでササユリの防獣金網かけなど、保全作業をお手伝い頂きました。また小さなお子さん連れの方々は苔玉作りや森林散策を楽しまれました。

作業道作り再開

雪のある冬の間は中断していた作業道作りですが、雪解け直後からの防獣ネット再設置やササユリの金網かけの作業が一段落し、5月14日から再開しました。道作りは目標地点までまだ６割ほどの距離が残っています。まだまだ長い道のりです。

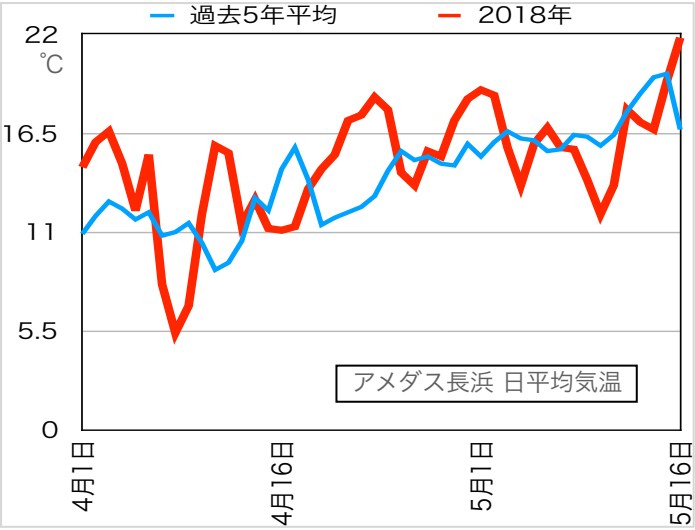
まずはルート上の立木を伐倒。伐倒したヒノキの一部は斜面の路肩補強に使うので、適当に処分はせず、綺麗に枝払いした後に４mに玉切りします。その後、路上の丸太や枝類は全て撤去し、重機で掘削しながら道を作り、均していきます。枝払いは手間が掛かりますし、払った枝の撤去はさらに手間が掛かります。

この一帯のヒノキ林も長らく手入れがされていません。次世代に残すことを考えれば、間伐や枝打ち、また食害防止のテープ巻きなどが必要です。と言いつつ、そのような作業を行う余裕が全くないのが実情です。せめて、そのような作業が可能なった時に邪魔にならないよう、チッパーを現場に搬入し、払った枝などはその場で粉砕処理しながら道作りを進めたいと考えます。

ドローンによる俯瞰画像

作業の先端部

作業道開設ルート



今月の森の様子

4月はここ数年と比べて気温が高めに推移しました。その影響か、山門水源の森では様々な植物の発芽や開花が例年より１週間から10日ほど早まりました。

5月に入って以降は気温はやや低めで推移していましたが、付属湿地のホオノキの例年より少し早く開花を始めました。モリアオガエルの卵塊も観察されたのも例年より少し早めのように思います。ササユリの蕾も場所によっては既に色づき始めています。

ササユリは防獣対策の効果もあって、湿原沿いでは沢山の株で開花が見られそうです。　その多くが観察道からは背を向けて開花をするので、来年は観察方法を工夫する必要がありそうです。

1日だけ雌しべが開くホオノキの花 5/15

モリアオガエルの産卵 南部湿原 5/14

色づいてきたササユリ蕾 南部湿原 5/17